

◎日 時	平成25年2月26日（月）午後2時00分～午後3時05分
◎場 所	北見市役所 北2条仮庁舎 3F 庁議室
◎出席者	会議委員：塚本会長、高橋副会長、山村委員、佐藤（忠）委員、平子委員、 佐藤（浩）委員、 広川委員、山内委員、多田委員、吉田委員、 江田委員、戸田委員、鈴木委員、遠藤委員、佐藤（雅）委員、 宮腰委員、渡部委員、井南委員、藤田委員、小原委員 北海道開発技術センター：芝崎氏 北見市：櫻田市長 事務局：浅野目企画財政部次長、橋本地域振興課長、奥原地域交通担当係長、 横山主任

開 会

浅野目次長： 本日は、大変お忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。ただ今から、平成24年度第5回北見市地域公共交通会議を開催させていただきます。私は、企画財政部次長の浅野目と申します。会議の進行を会長にお願いするまでの間、私が努めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

まず始めに、委員改選後、はじめての会議ですので、委員の皆様方に櫻田市長から委嘱状を交付させていただきます。委員の皆様には、そのまま自席にてお待ちください。

・・・・・・委嘱状交付・・・・・・

浅野目次長： 以上で、委嘱状の交付を終わります。次に、櫻田北見市長よりご挨拶申し上げます。

櫻田市長： ただいま、ご紹介いただきました市長の櫻田でございます。日頃より、市政発展のため、多大なるご指導とご協力をいただいておりますことに対し、この場をお借りいたしまして厚くお礼申し上げます。また、本日は、北見市地域公共交通会議へのご参加につきまして、お願いを申し上げますところ、快くお引受けいただきまして、誠にありがとうございます。

さて、近年、自家用車の普及、少子高齢化、人口減少等の社会情勢の変化に伴い、公共交通の利用者は年々減少傾向にあり、公共交通の急速な衰退、さらには環境への影響が懸念されているところであります。このような中で、地域の実情や利用者のニーズに応じたさまざまな形態の輸送サービスの提供が求められており、公共交通のあり方を協議する機関として平成23年1月に北見市地域公共交通会議を設置させていただいたところでございます。この2年間、委員の皆様方には、夕陽ヶ丘線の運行や北見市地域公共交通計画について、さらに、現在、川東・若松地域において実証運行を行っているコミュニティバスの運行等についてご協議をいただき、さまざまな立場からご意見等をいただいたところでございます。公共交通は、市民が日常生活を送るうえで、必要不可欠な交通機関であり、今後の超高齢社会を見据えると、より一層その必要性は高まるものと認識しております。

委員の皆様におかれましては、これまで同様、忌憚のないご意見等をいただければと思っ

ているところでありますので、よろしくお願ひいたします。本市のよりよい公共交通網の構築のため、委員の皆様方の特段のご指導とご協力をお願ひ申し上げまして、簡単ではございますがご挨拶とさせていただきます。よろしくお願ひ申し上げます。

浅野目次長： 本日委員改選後初めてということもでございます。大多数が継続ということもございますが、改めまして委員の皆様から自己紹介をお願ひしたいと思ひます。おそれいりますが、山村委員から順次お願ひしたいと思ひます。

山村委員： 北海道北見バスの山村でございます。交通事業者の立場として参加をさせていただいております。私どもの持っているノウハウをこの会議で出せればと思っております。よろしくお願ひいたします。

佐藤（忠）委員： 網走バスの佐藤と申します。網走市の地域公共交通会議でも同じく委員として参加しております。こちらのほうでも新しい意見を言えたらと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

平子委員： 北見タクシーの平子と申します。本日はハイヤー組合の理事長として参加させていただいております。どうぞよろしくお願ひいたします。

佐藤（浩）委員： 私鉄総連北見バス支部という、労働組合の執行委員長をやっています佐藤と申します。引き続きよろしくお願ひいたします。

広川委員： 北見市の老人クラブ連合会から出ています広川です。この会議で一番お世話になる年齢の組織ではないかと思っております。どうかよろしくお願ひいたします。

山内委員： 北見市自治会連合会の山内と申します。昨年に引き続き皆様に色々と教えていただかなくてはと思っております。市民の目の高さで感じたことを述べていきたいと思ひます。どうかよろしくお願ひいたします。

多田委員： 北見まちづくり協議会から推薦を受けまして参加しております多田と申します。かなり大げさに言えば、北見市民を代表して、ということになるかと思ひますが、山内委員と同様、感じた点などいろいろな点を述べさせていただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

吉田委員： 端野まちづくり協議会の吉田でございます。市民、住民の立場に立って意見を述べさせていただきますのでよろしくお願ひいたします。

江田委員： 常呂まちづくり協議会の江田といいます。今回新任ということでお世話になりますが、少しでも市のお役に立てればと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

戸田委員： 留辺蘂まちづくり協議会から推薦されてきました戸田でございます。留辺蘂は北見市の中で一番高齢化率の高い地域でございます。住民の立場に立った意見をこの場で反映させていただきますので、どうかよろしくお願ひいたします。

高橋委員： 北見工業大学の高橋でございます。前回に引き続きよろしくお願ひいたします。

鈴木委員： 北見運輸支局の鈴木と申します。バス関係、タクシー関係の許認可業務をもっています。発言しづらいことも私どもの関係からはございますが、より良い公共交通を目指して、今後も頑張らせていただきますので、よろしくお願ひいたします。

遠藤委員： 北海道開発局北見道路事務所の遠藤です。国道の整備、維持管理を担当しております。どうぞよろしくお願ひいたします。

佐藤（雅）委員： オホーツク総合振興局網走建設管理部北見出張所の佐藤です。北見市内、訓子府、置戸

の道道の整備、維持管理を担当しております。よろしくお願いいたします。

宮腰委員 : 同じくオホーツク総合振興局地域政策課の宮腰と申します。地域政策全般を担当しています。どうかよろしくお願いいたします。

塚本会長 : 北見副市長の塚本でございます。前回同様、よろしくお願いいたします。

渡部委員 : 北見市企画財政部の渡部でございます。お世話になりますが、よろしくお願いいたします。

井南委員 : 北見市都市建設部長の井南と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

藤田委員 : 同じく北見市保健福祉部長の藤田と申します。

小原委員 : 同じく教育委員会学校教育部長の小原と申します。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

浅野目次長 : ありがとうございました。続きまして、事務局を担当いたします職員について自己紹介いたします。改めまして、私企画財政部次長の浅野目でございます。どうかよろしくお願いいたします。

橋本課長 : 企画財政部地域振興課長の橋本と申します。事務局を担当させていただきます。どうかよろしくお願いいたします。

奥原係長 : 担当係長の奥原親雄と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

横山主任 : 担当課員の横山と申します。よろしくお願いいたします。

浅野目次長 : それでは、市長ですが、この後公務がございまして、ここで退席させていただきますのでご了承いただきたいと思います。

.....市長退席.....

浅野目次長 : 次に、この会議の会長についてであります。北見市地域公共交通会議設置要綱の第5条第2項の規定により、会長には、北見市副市長がその任につくことになっておりますので、よろしくお願いいたします。それでは、塚本会長よりご挨拶いただきたいと思います。

塚本会長 : 皆様ご苦労さまです。ただ今櫻田市長から皆様宛に委嘱状を交付いささせていただきました。23年1月からスタートしたこの会議も第2期目に入ってまいります。ここまでご協力いただいた委員の皆様、そして今回新しく参加された委員の皆様、どうかよろしくお願い申し上げます。ただ今市長からお話がございましたように、この公共交通のあり方というのは、我々市民にとっても大切な足となりつつあります。先ほど広川委員から、高齢の方たちが使っていかなければならない公共交通を確保するために是非とも、というご意見がございました。我々はそういった意味でもこのテーブルで、北見市内におきます交通の過疎を無くすために、ご議論いただければと思っておりますので、これからもよろしくお願いいたします。冒頭、会長に就任ということで、ご挨拶を申し上げます。

浅野目次長 : これからの議事進行につきましては、設置要綱第6条第1項の規定により、会長が議長となりますので、どうぞよろしくお願いいたします。なお、副会長につきましては、要綱第5条第3項の規定により、会長が指名することとなっておりますので、ご指名をお願いしたいと存じます。

塚本会長 : ただいま、司会の方から副会長の指名についてありましたが、要綱第5条の3項で副会長を会長が指名することとなっておりますので、私の方から指名させていただきたいと思

ます。引き続き、北見工業大学の高橋委員にお願いしたいと思いますが、皆さんよろしいでしょうか。

．．．．．異議なし．．．．．

塚本会長　：　それでは、高橋委員、よろしくお願ひいたします。どうぞ高橋委員は、こちらの方へお願ひいたします。

高橋副会長　：　皆様改めまして、こんにちは。北見工業大学の高橋でございます。前回に引き続きということで、この会議も2期目に入っています。この2年間、本当に色々なことがあったと思います。どちらにしても、この北見市地域公共交通会議で議論する公共交通というのは、今までの皆さんの公共交通に対する概念を変えていかないと、危機状態を脱することができないのではないかと考えております。皆様も一度、皆様の中にある公共交通の概念を一度崩して、本当にこのまちに必要な交通機関は何なのか、そのためにどうしなければならないのか、ということをもとに帰って考えてみる必要があると思います。私もそういう観点からもう一度この交通を見直す、という形でこの会議をお手伝いできればいいなと考えております。ぜひ皆様の忌憚りの無いご意見をいただいて、この会議が成功いたしますよう、お願ひいたします。

塚本会長　：　ありがとうございました、どうぞよろしくお願ひいたします。それでは、これから会議を進めてまいりたいと思いますが、会議の成立について事務局からご報告いただきたいと思ひます。

橋本課長　：　本日の出席委員数は、21名中、20名であります。北見市地域公共交通会議設置要綱第6条第2項の規定に基づき、半数以上の出席がありますので、本日の会議が成立いたしますことをご報告申し上げます。

　　なお、北見警察署の元嶋委員が遅参のご連絡をいただいておりますので、報告申し上げます。

塚本会長　：　それでは、レジュメに従いまして会議を進めてまいります。7番目の報告事項、北見市公共交通マップについて事務局から説明いただきたいと思ひます。

報告（1）北見市公共交通マップについて

芝崎氏　　：　北海道開発技術センターの芝崎です。私から、北見公共交通マップについて簡単にご説明させていただきます。皆様のお手元にある北見市の交通マップについて、今幹事会のほうで検討しております。基本的には、市全体の交通を示すもの、または初めてバスに乗ったときにわかるようなもの、主要な目的地への行き方などを掲載しております。皆様のお手元にはA3版をお配りしておりますが、原寸サイズは倍のA2になります。折り方についてもコンパクトに折れるよう予定しております。お手元のものは小さくて見づらいと思ひますが、倍のサイズになるとご認識いただきたいと思ひます。作成途中でございますが、基本的に北見市全体の図ということで北見自治区、端野自治区の入ったもの、留辺蘂自治区、温根湯、常呂自治区を掲載しております。今まで市全体を示すバスマップというのは無かったと思ひますので、こちらのほうは全体がわかるようになっています。交通マップということですので、

バス路線のみならずバスの待合所やバス乗り場も詳細に示しています。全部はまだ落としきれていませんが、そのような方向で検討しています。また、バスの乗り方みたいなものを簡単にご紹介させていただきたいと思います。また、良く行くバス停の行き先を記入できる欄を設けておまして、基本的には幹事会で検討を進めていきます。

これからもう少しデータの作り込みが必要でございますが、まずは構成や全体像を示させていただきます。以上です。

塚本会長 : ありがとうございます。ただいま事務局から、北見市交通マップについて報告がありました。この際でございますので、何かご意見等ございませんでしょうか。

このマップについては幹事会で協議いただいております、経過途中でございますが、これからさらに精度をアップするようにこれからお話いただくことになっています。このようにマップを作っていくのご報告をさせていただきましたが、何かご意見ございますか。では、このような形で幹事会を進めさせていただきたいと思います。

では、8番目の協議事項、川東・若松地域コミュニティバスの運行について事務局より説明をお願いします。

協議事項(1)川東・若松地域コミュニティバスの運行について

橋本課長 : 川東・若松地域のコミュニティバスにつきましては、3月末の実証運行終了後に、本格運行に移行するのか、元のバス路線に戻すのか決めていくこととなりますが、どちらにしても事務手続きなどに一定の期間を要することから、今年の9月末まで継続して運行するという事で、前回の協議会でご説明をさせていただきました。

4月から、継続運行するにあたり、デマンドエリアの若松地域で運行経路に入っていなかった鈴木の沢も路線に追加していただきたいとの地域の要望がありましたので、この路線を追加して、運行を継続していきたいと考えているところです。詳細につきましては、北海道開発技術センターの芝崎さんから説明をしていただきたいと思います。

なお、現在行っている実証運行につきましては、夕陽ヶ丘線と同様の、地域内フィーダー系統確保維持事業を活用する目的で行っておりますが、4月以降も引き続き同様の目的で行ってまいります。それでは、説明をお願いいたします。

芝崎氏 : 私から、資料に基づいてご説明させていただきます。川東・若松地域コミュニティバスの運行について、という資料についてでございます。

1ページ目のコミュニティバスの経緯ということで、11月19日、20日に住民説明会、12月10日運行出発式を行い、12月10日から3月31日までコミュニティバスの実証運行をしています。コミュニティバスの実証運行と書いておりますが、4月1日から9月30日は継続運行という形を予定しています。本格運行を目指しまして、各種アンケートを実施しました。1月30日から2月20日までコミュニティバスの中にアンケートを置きまして実施しました。さらに2月1日から2月20日の期間においては、デマンドバスをご利用された方にアンケートを送付し、調査を実施しました。それについては後で説明させていただきます。

2ページ目でございます。コミュニティバスの乗降調査、ということで、2月10日から17日までの期間でございますが、総利用人数が2,224人、デマンド利用者が298人、

ということで、1割強くらいの方がデマンドを利用されているということでございます。乗車密度は3.7となっています。利用されている方は前報告させていただいたときよりも減らずにご利用いただいている、ということでございます。

3ページに日ごとの乗車人数のグラフを示させていただいています。1月10日までは前報告説明させていただきましたので、それ以降ということになります。やはり土日祝日については利用者が若干減る傾向にございますが、基本的に平日には40前後の利用者で安定しているところでございます。15日金曜日74名ということで、飛び抜けて多い状況ですが、北見支援学校で大人数のご利用があり、増便するような形となりました。20名が北見支援学校でご利用されたということです。

4ページ目でございます。便ごとの乗車人数、乗車密度を整理したものです。下のグラフは前回の公共交通会議でお示しさせていただいたグラフですので、ご比較いただければと思います。北見バスターミナル行きについては、1便は8.0と飛びぬけて多い状況です。前回7.5から8.0にあがっているということで、やはりここに利用者が集中しているということです。それに比べて3便は若干利用頻度が落ちていますが、便利な便ということで1便に集中している状況です。

川東・若松行きでございます。こちらのほうが、4便が7.2ということで、前回の会議の報告だと6.4でしたので、こちらのほうも若干密度が上がっています。一方乗車密度が落ちたのが6便で3.9ということで、こちらにも4便に利用者が集中しています。

5ページ目は便ごとの支払い方法でございます。ピンク色が高齢者等無料乗車証ですので、概ねどの便も高齢者の方が多いということでございますが、0便、1便は通勤、通学を想定して設定した便ですので、やはり現金の支払い人数が割合として多い、ということでございますので、通学等にご利用いただいているところでございます。8便についても、若干現金での乗車が増えているところでございます。こちらのほうも帰りの通勤の方や一般の方がご利用されている状況です。

6ページ目でございます。乗車・降車バス停ごとの人数となっています。デマンドエリアでご利用された方が142名ということで、定時定路線でご利用されている方の最も多いのが北見老人ホーム、次に川東3号線付近、さくら子供公園となっています。信善光寺入口とさくら子供公園は今までバス路線の無かった地域でございますので、こちらの方も利用しやすくなって、利用していただいている状況です。川東・若松行きについては、降りたバス停で最も多いのが、北見老人ホームでございます。次にさくら子供公園、新和町内会、ピッチ&パッチ北見という順番になっています。乗車バス停と降車バス停の差異がある状況です。情報としては網羅していませんが、乗車された方の総人数が1,251名でございます。降車の人数が973人ということで、その差が278人ございます。278人は別の方法で戻ってきているということですので。こちらはもう少し、帰りの便で帰りやすい時間などでフォローができるかと考えております。

7ページ目でございます。こちらはデマンドエリアに限りまして乗車の割合というものを入れています。棒グラフの数量が運行した便数でございます。最も多いのが7便で47便、78パーセントの運行確率です。こちらは前回の会議で提示させていただいたグラフから伸びている状況です。川東、若松行きについても、4便のほうに68パーセントから77

パーセントということで、ご利用される方が増えているということで、こちらのほうに集中している状況です。

8ページ目でございます。こちらは利用者がいらっしゃらなかった便ということで、2便が最も多いという状況です。その他も、基本的に4便など変化が無い、ということでございますので、基本的にどの便もある程度乗車される方がいらっしゃる、ということです。こちらのほうは乗車密度と相関性のあるグラフになっています。

9ページ目でございます。こちらはデマンド利用者のアンケートでございます。こちらはデマンドで利用されている方に郵送でアンケートをお送りいたしました。今までデマンド利用者の登録人数が、北見市にお住まいの方ということで20名の方が日々利用されているという状況です。回収票が10票と少ないのですが、なかなか回収にご協力いただけなかったというところ です。

10ページからは、構成人数等の結果でございます。性別については4名が男性、6名が女性となっています。年齢は10代から80代までいらっしゃいまして、80代が4名と最も多くなっています。職業については会社員から無職の方ということで、高校生が2名いらっしゃいますが、こちらの方はスキーで利用されている方です。世帯の状況としては、配偶者のみの方が4名ということで、あとは親子、単身、その他となっています。その他というのは、グループホームで生活されている方でした。免許・自動車の保有状況については、約6人が持っていないということで、以前持っていた方が2名、免許がある方が1名いらっしゃいました。これは自動車の保有状況とまったく同じです。

11ページ目でございます。2月10日以前の若松線の利用状況でございます。たまに利用していた、という方が4名、日常的に利用していた方が3名いらっしゃいます。比較的若松線を利用されていた方にご回答いただいています。2名がまったく利用されていなかったということでございます。若松線のデマンドの利用方法の理解ということで、どのように理解されたかということですが、すぐに理解できた方は1名と少なく、利用して理解できた方が5名、わかりづらかった方が2名となっています。また、デマンドについて知り合いに紹介した、という口コミの状況ということで、半数の方がご紹介をいただきました。コミュニティバスを知った媒体、ということで、どういうところでコミュニティバスを知ったか、というところですが、新聞が最も多く、その他が説明会、チラシ、ホームページとなっております。その他2名は北見市の広報で知りました、という方です。以前の若松線に比べてコミュニティバスの利用頻度は、ということで、変わらないという方が5名、減った方が2名という状況です。増えた方もいらっしゃいます。希望の締め切り時間ということで、デマンドの予約の締め切り時間を示したものでございます。これは平均の時間で1時間17分ということで、今は2時間ですので、もう少し直前まで予約を待っていただくとありがたいようです。

12ページ目でございます。デマンド利用者アンケートのコミュニティバスの利用状況ということで、スキーの方が5名いらっしゃいました。半数の方がスキーで利用されている方でした。それ以外の方は川東・若松地域にお住まいの方でございます。その他が習い事で利用されている方です。コミュニティバスの妥当な運賃ということで、現状は400円ですが、3名の方が現状で妥当というご回答をいただいています。それ以外の方はそれ以外の方

はもう少し安いほうが良いということで、300円が3名、200円が2名となっています。予約についてですが、予約をいただいたときに何時頃着きます、というコールバックでの予約確認をしております。こちらが不必要と答えた方が4名、必要と答えた方が1名、どちらともいえないと答えた方が3名でした。こちらはスキーで利用されている方も多かったものですから、その方々には不必要であったり、どちらともいえない、という回答が多かったです。コミュニティバスの満足度でございますが、満足と答えた方が3名で、どちらともいえないと答えた方が2名、不満足が3名となっています。不満足の方の構成といたしまして、スキーを利用されている方が2名、若松地域の方が1名いらっしゃいます。利用しやすい運行方法ということで、どちらともいえない方が1名で、現在のものが2名、以前の運行方法が5名ということでもっとも多かったです。ただ、スキーの方が4名と、先ほどの項目で不満足と答えた方が1名ということでございます。この方は以前の運行方法のほうが良いと答えています。

13ページ目でございます。良くなったところはどこですか、ということで、自宅近くまで迎えに来てくれることに関しては良くなったとお答えいただいています。また、家族送迎に頼らなくて良くなった、車両が小さくなったことについて良くなった点ということで挙げていただいています。また、アンケートで地域の方の意見を踏まえながら運行している、ということも良かったという意見も1件ございました。改善点といたしまして、先ほど予約についてのご意見がありまして、予約をもう少し簡単にすることを改善点として挙げております。目的地までの運行時間を短くする、ということで、今までは20分弱くらいで若松スキー場に着いていたものが、この運行方法だと40分くらいかかりますので、改善点として挙げられています。

14ページはデマンド利用者の自由意見ということで、スキーで利用されている方のご意見が多かったというところでございます。予約無しで使いたい、というご意見や、時間の設定で、3時から6時に帰りの便が1本あると良い、とか、他の交通機関との接続を良くしてほしい、という意見があったところです。ここまでは、基本的にデマンド利用者の方々に郵送した分でございます。

15ページ目からは、コミュニティバスの車内に据え置きで設置したアンケートでございます。こちらは2月1日から今も実施しておりますが、28日まで予定しているところです。希望者の方には運転手が返信用封筒をお配りさせていただいて、バス車内での回収も返信用封筒での回収もできる、という状況でした。今まで回収したのが22票ということで、現状で700人くらいの方が利用されていますが、そのうち22名の方がご回答いただきました。

16ページ目からが内容でございます。性別については70パーセントが女性、30パーセントが男性、不明が2名となっています。年齢については70代以上が63パーセント、60代が27パーセントということで、ご高齢の方が多くなっています。無職の方が63パーセント、主婦・専業主婦の方が32パーセントという状況です。回答者の居住地ということですが、車内に据え置きでアンケートを実施したため、デマンドでアンケートを送った方にもご回答をいただいております。川東・若松以外の方はスキーで利用されている方でございます。川東の方からのご回答が63パーセント、若松の方が1名です。以前の若松線の利用状況ということで、利用したことがあった方が73パーセント、利用したことが無かった

方が6名いらっしゃいました。その方たちの理由として、利用する機会が無い、ということと、利用しづらいため利用していないということとでいただいています。利用頻度については、利用したことがあった方についても週に1～2回ということで、結構利用されている方々、という状況でした。

17ページ目でございます。コミュニティバスの以前の若松線の利用目的と、コミュニティバスの利用目的、ということで、ここも変わりはありませんが、買い物が約3分の1、通院が約3分の1、その他が3分の1ということで構成されています。その他の内容といたしましては、先ほどスキーの方がいらっしゃったということで、スキーの方と、習い事とか、市役所に行きます、というご回答をいただきました。往路で北見に行くときに利用する便についてですが、1便が最も多くて、次に3便ということでお答えいただいています。こちらのほうは乗降調査と整合性が図られています。また、北見バスターミナルから帰ってくる便でよく利用する便は、ということで、6便は15名、4便は13名ということになっています。こちらのほうは乗降調査では4便のほうに乗降人数は多いのですが、アンケートでお答えになった方の良く利用する便は6便ということで、こちらは逆のご意見が出ているというところ です。

18ページ目でございます。コミュニティバスの満足度ということで、黄色は満足度が一番高いということでございます。そう思わないのが青となっています。満足度の高い回答で最も多いのが、フリー乗降が可能になり利用しやすくなったというご意見で、17人お答えになっています。次に、ルートが変わり利用しやすくなったということで14人、料金面で利用しやすくなったという方が13名となっています。一方で、そう思わないという意見が多かったのが、他の交通機関への乗り継ぎが良くなったということで、こちらが市内のバス路線との接続で若干課題が残っており、見直しが必要かなと思います。

19ページ目でございます。コミュニティバスの問題点ということで、最も多いのは利用したい時間にバスが無い、ということとでございます。こちらの希望する便といたしましては、北見バスターミナルに行く便に午前中のがもう1本あれば良い、という意見が一つありました。帰る便に12時、14時、16時くらいの便があると良い、という意見をいただいています。次に意見が多いのが、便数が少ないということで、利用したい時間にバスが無いということに関係していることです。また、乗車時間が若干長いという意見も多かったです。さらに、先ほどの問題点としても挙がって、改善点として挙げられていた、他の公共交通機関からの接続、ということも問題点として挙げられています。終発が早い、という方も4名いらっしゃいました。

20ページ目が、コミュニティバスの改善点は何か考えられますか、ということでいくつかいただいています。バスターミナルの15時の利用者が少ないので、以前の16時が良いと思う、デマンド区間の利用がもっと活性化されると良い、もう少し広範囲にデマンド区間を設定したほうが良い、という意見がありました。あと、往路と復路の折り返しの時間が基本的に30分くらい設けておまして、それが40分くらいになればその間に用が足せる、という意見が2件ほどございました。また、北見バスターミナルの到着時間に今の到着時間より5分早く設定してほしい、という意見もあり、比較的時間にに関する課題が挙げられています。

21ページからは自由意見でございます。これは全部読んでいと時間がかかりますが、主な傾向としては、基本的にコミュニティバスの年間運行をもっと長く運行してください、というご意見をいただいております。また、運転手が優しくありがたい、というコメントを多々いただいております、利用者の方と運転手の距離が近い、ということが良かった点として挙げられています。地元の方からは、基本的に継続運行を求められているという結果でした。ここまでが、コミュニティバスの乗車アンケートでございます。

23ページ目からは継続運行の計画です。橋本課長からお話のあったとおり、追加のデマンド路線を設定させていただきました。こちらは鈴木の沢という地域でして、地域からご高齢の方がお住まいということで、デマンドエリア拡大を予定しております。定時定路線は変更なく運行したいと考えています。

24ページ目に、4月1日から9月30日の期間を継続運行の概要が記載されています。運賃、車両については継続予定です。運行ダイヤは夏ダイヤを予定してまして、今まで定時定路線は35分の時間を設けておりましたが、夏ダイヤはこの区間を25分で運行できそうなので、運行時間を短くした形の運行ダイヤとしたいと思います。私の説明は以上です。

塚本会長 : ありがとうございます。川東・若松地区のコミュニティバスについて事務局から説明がありました。これについてご意見があれば承りたいと思いますが。

多田委員 : 14ページの自由意見のところで、一番上の60代の女性で、予約運行のことが書いてありますが、これは絶対予約しなければ乗れないものなのですか。例えば、歩いているときにコミュニティバスが来たら、手を挙げて乗れないのですか。14人乗りの車ですが、立って乗っても良いのか、空席があってもダメなのか、どうなのでしょう。

芝崎氏 : 基本的にデマンドエリアで予約が前提となっております。定時定路線で運行する予定があるものですから、ある程度人数の把握をして定時定路線に入る、ということで、予約が必要となっております。

多田委員 : 基本的ということは、例外もあるということですか。

芝崎氏 : デマンドで行っている場合、フリーで乗せてほしい、という乗客に関しては、他の地域も対応しておりません。やはり予約でどこに行くかということ把握したうえで時間を設定しているものですから、予約いただくようにしています。

塚本会長 : 14名を超えた場合にはお断りする場合もあるのですか。

芝崎氏 : 代車などを出す場合があります。

多田委員 : 私が聞きたいのは、予約の締め切り後に用事を思い出して行きたい、という場合にどうなるのか、ということです。

芝崎氏 : デマンドエリアについては、どこまで行くか、などのことを伝える時間を設けなければならないものですから、突然言われても運転手さんは困るかと思います。

予約の方法として、今毎回予約いただくようになっていますが、例えば一週間分とか、複数日を予約する、などの方法があるかと思います。

多田委員 : わかりました。

塚本会長 : これは、バスが出た後でキャンセルは受けられるのですか。

芝崎氏 : 予約時間にいらっしゃらない場合などもございまして、そのような場合はその方の降車予

定分は飛ばして次の場所に向かう、ということになります。

- 多田委員 : 運転手さんはどのような人なのでしょうか。随分評判が良いみたいですが。
- 山村委員 : 私どもの会社の者です。
- 橋本課長 : 今日インターネットで昼休みに経済の伝書鳩を見たのですが、「私は言いたい」の欄に「コミュニティバス継続運行を」という書き込みがありまして、その中にも、運転手の対応が非常に良い、ということで、ぜひ継続運行してほしい、ということが載っていました。
- 塚本会長 : うれしい話ですね。山村委員、運転手は固定なのでしょうか
- 山村委員 : 運転手は大体固定されています。休みのときには別の者が運転しますが。
- 塚本会長 : 今、コミュニティバスの詳細、アンケートの詳細について説明いただきましたが、その他に何かございますか。
- 吉田委員 : 若松地区まで行くのに、今までは20分くらいかかっていたのが、今は40分かかるといことですが、これを短くする方法は何かあるのですか。私は、このコースを走っていく以上は短くならないのではないかと思います。
- 芝崎氏 : 定時定路線部分のバス停間が1分間くらい短くなるので、その分デマンドエリアまでの到着時間が短くなりますが、大幅に短くするというのは、車両が1台の関係で難しいのかなと思います。冬場についてももう少し短くする余地はあるかと思いますが。
- 塚本会長 : デマンドエリアで予約があった場合、それぞれの予約者のところに迎えに行かなくてはならないですから、今言われたような問題も出てくるかと思いますが。その他にご意見ありますか。
- 平子委員 : デマンドの部分で追加路線と言われているのですが、それでも今までと同じようにデマンドエリアを40分でまかなえる、ということですか。
- 芝崎氏 : まなかえる予定です。現状のデマンドの利用者数が1便あたり1~2人なので、そこが増えても時間が変わることはないかなと思います、対応できるかと思います。
- 山内委員 : 市民の方からの意見なんですけど、このバスは川東の信善光寺の下の方から堤防の方を回ってくるのですが、例えば桜の時期のような、期間限定のようなもので、降りて散策して次のバスに帰れるようになれば非常に良い、という人がいたのですが、そういうことは可能なのでしょうか。
- 橋本課長 : 信善光寺のあたりは定時定路線となっていますので、予約は必要ありません。バスターミナルで乗って信善光寺まで行っていただいて、そこで桜を楽しんでいただいて、信善光寺のバス停で立っていただいて次のバスに乗っていただければと思います。
- 山内委員 : 今の路線で、桜のある方にちょっと回っていただいたりするのは難しいのですか。
- 橋本課長 : それは、定時定路線となっておりますので、ご容赦いただきたいと思います。
- 塚本会長 : 他にございますか。無ければ、このバスは9月まで継続運行するということですが、そういう方向でよろしいですか。また、この中で新しいご意見をいただきながら、本格運行になっていけばと思いますので、よろしく願いいたします。
- 続きまして、9番のその他ということで、次回の会議の開催日程について、事務局からお願いいたします。
- 橋本課長 : 次年度の予定につきましてご説明をさせていただきます。今年度は今回が最後ということになります。先ほどの交通マップの関係については、この後幹事会でもう一度内容について

検討させていただきます。予定としましては、3月中に交通マップを作成して、市民に配布していきたいと考えており、皆様にご理解をいただいたところでございます。今年度につきましては、この会議は終了ということになります。次年度の予定につきましては、4月中を予定しております。日程は未定ですが、コミュニティバスについて4月以降も運行の了承をいただいた、ということでございますので、こちらのほうからご連絡させていただきます。よろしくお願いいたします。

山村委員 : 今、コミュニティバスの延長の決定をしていただいたのですが、9月30日までとなっています。実証運行を私どもは承っていますが、当社の事情を申し上げますと、ダイヤ改正の時期がございまして、毎年12月1日が改定日です。ですから、実証運行の期間が延ばせるのであれば11月まで延ばしていただいて、それから本格運行にするのか判断する、ということにならないか検討していただければと思うのですが。

浅野目次長 : 国の補助が10月から9月の期間ですから、それが2ヶ月延びることでその年度が対象から外れてしまう可能性も出てきます。

橋本課長 : それについては、ちょっと調整させていただきたいと思います。

塚本会長 : それについては時間がございますので、国と協議をしながら対応させて頂きたいと思えます。利用しやすい時間に接続できるようになれば良いと思えますので、また検討させてください。

高橋副会長 : 今日の会議のようなデータが出てきた、ということ自体がすばらしいことで、これは実証運行しなければわからなかったことです。今回は冬のデータですが、夏場はバスにとって弱点であり、利用者が減っていく期間です。そういうときにどのようなサービスが提供できるのか、ということを考えていきたいと思えます。

塚本会長 : 今日の案件は全て終了しましたが、その他皆様から何かございますか。今回の会議は平成24年度最後の会議ということになります。川東・若松のコミュニティバスも今ご報告がございましたように、非常に運転手さんが非常に優しい、そして乗ってらっしゃる方も経済の伝書鳩に書かれていて、継続してほしいという意見がありました。非常にほっとする話題がたくさんありました。これからもこのバスがご利用いただきまして、市民の足となっていくことを期待したいと思います。夏場は高橋副会長もおっしゃったように、皆様どうしてもバスに乗らなくなるということがございますので、コミュニティバスがどう繋いでいくのかを、検討していきたいと思えますので、今後もよろしくお願いいたします。それでは、第5回北見市地域公共交通会議を終了させていただきます。どうもご苦労さまでした。(15:05)